

2023年度を振り返って

一般社団法人ひびき青年会議所
第52代理事長 辻 聖

2023年度、私たち一般社団法人ひびき青年会議所はFor the future～今と未来を繋ぐ～をスローガンに掲げ、青年会議所の理念でもあります「明るい豊かな社会の実現」に向けて、我々ひびき青年会議所の発展も怠ることなく、2023年度の活動、運動が5年後10年後につながることを念頭に、この地域の未来を創る青少年の健全な育成、地域団体が互いに協力できる関係作り、未来につなぐ地域開発事業を行ってまいりました。

5月には新型コロナウイルス感染法上の位置づけが5類へと移行し、自粛、中止を余儀なくされてきた青年会議所活動もコロナ禍前に完全に戻ったように感じます。2020年から始まるコロナ禍に入会したメンバーが過半数を占めるLOMの現状の中で、メンバーには青年会議所の理念や、存在意義、魅力をしっかりと伝え自ら行動のできる人材へと育成を行ってまいりました。メンバーの資質向上を目的とした例会はもとより、日本に出向しているJC教育推進委員会の今住委員長が推進するJC公認プログラムを年3回取り入れるなどJAYCEEとしての成長の機会に重きを置いた一年でありました。また、青少年育成事業では約30名の子供達に夢をもってもらうために朝倉の夜須高原に1泊2日での宿泊事業「挑戦しよう！ひびきっず」、地域開発事業では岡垣町の波津周辺の魅力を地域内外の人々に知ってもらうために「波津シーサイドフォトサイクリング」を実施しました。委員長の皆様にはしっかりと理事長所信を読み取っていただき、それぞれの委員会の個性を出した素晴らしい事業を展開していただきました。

そして、例年にない縦に長い組織図で、多くのメンバーに職務を与える試みをしたことで、誰に責任があるのか、誰がやるべきなのかという問題も往々にしてあったと思います。しかし、2024年、2025年でひびき青年会議所の中核を担うメンバーの大多数が卒業ということを見ると組織力の底上げにつながったと感じています。

最後に、2023年度 第52代理事長の職を仰せつかり、多くの皆様のお力添えをいただき一年間駆け抜けることができました。すべてのメンバーに感謝申し上げます。これからのメンバーにはJCだからこそできることを考え運動を展開してほしいと思います。でなければ、市民意識変革運動というJCの独自性が失われてしまいます。市民とともに地域を変えていくという視点をもって一年毎に組織が変わる青年会議所だからこそ成しえる事業を積み重ねていきましょう。

2024年度 第53代理事長盛田総平君率いる一般社団法人ひびき青年会議所の活動に皆様のお力添えをいただきますよう心よりお願い申し上げます、2023年度事業報告とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。

事務局

～基本方針～

2020年から続く新型コロナウイルス感染症で活動制限や自粛を余儀なくされる中、JCIひびきと地域の方々が明るい豊かな社会の実現に向けて共に歩き続けられる環境づくりを柔軟に行って参りました。変化する時代の波に歩みを合わせ、円滑に会を運営できるようにJCIひびきのメンバーが同じ進路を向き経験や知識を共有しあえる場を維持し、変化に柔軟に対応できる組織運営を行えるように会をサポートしていく必要があります。

まずは、専務理事が運営を柔軟に進行できるように、専務理事と連絡を取り合い、各種会議の流れを把握することで、運営を円滑に進行するようになります。そして、メンバーの役職や名前を認知してもらうために、鮮明に印象を与える名刺、名札、会員手帳を配ることで、対内外の方々にメンバーの情報を周知することができます。さらに、メンバーやシニアの親密化につなげるために、期日を決めて対内誌を発行することで、活動報告やスケジュールを共有することができます。また、幅広い世代の方がJCIひびきに衆目をあつめるために、HPやSNSを発信していくことで、情報を見聞きでき、認知度の向上につながります。そして、メンバーの活動意欲向上のために、福岡ブロックのアワードにエントリーすることで、メンバーのJC活動への意欲が向上します。さらに、各種会議の品質向上のために、整理整頓および事務局内の清掃を行うことで、各種会議の進行が滞りなく行えます。また、JCIひびきの信頼を維持するために、予算会議において、誤字脱字を修正し予算書の確認を行うことで、各委員長の意識が高まり、議案の質が上がります。

JC活動が円滑に行える環境が構築され、JC活動の中で芽生えた友情や団結力、新しいことへのチャレンジによる達成感が理事長のスローガンのもと足並みを揃えたメンバー一人ひとりを成長させ変化したJCIひびきはより一層地域に愛される組織となります。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

（1）専務理事の補佐

（方法・手段）

専務理事が運営を柔軟に進行できるように、専務理事と連絡を取り合い、各種会議の流れを把握することで、運営を円滑に進行するようになります。

（評価・反省）

専務理事の仕事把握し運営の進行を補佐できたと思いますが各種大会のLOMでの流れなど事前に打ち合わせができず、メンバーへの伝達が遅れることがあったので専務からのスケジュールをかみ砕きより細分化してメンバーに伝達できればメンバーの負担が減り大会に専念でき活動意欲につながったと思います。

（2）名刺、名札、会員手帳の発行

（方法・手段）

メンバーの役職や名前を認知してもらうために、鮮明に印象を与える名刺、名札、会員手帳を配ります。

(評価・反省)

理事長のイメージと想いがLOGOなどに反映でき良かったと思うところですが、それがあまりメンバーなどに伝わらなかったので多く使う理事メンバーが対外に説明できるよう徹底し、メンバーにも伝えていけばよかったと思います。

(3) 対内誌に関する事項

(方法・手段)

メンバーやシニアの親密化につなげるために、期日を決めて対内誌を発行します。

(評価・反省)

ペーパーレスになり内容も豊富な対内誌が出せたと思いますがシニアやメンバーに閲覧方法が浸透せず閲覧数を伸ばす工夫ができれば良かったと思います。

(4) ホームページ、SNSの運営

(方法・手段)

幅広い世代の方がJCIひびきに衆目をあつめるために、HPやSNSを発信していきます。

(評価・反省)

Instagramなどでリアルタイムに発信でき多くの人に活動をみていただけたと思います。反省点では事業などに自分が出られないときに代替りの要員がいなくなると発信できない状況があるため交代要員を事前におく必要がありました。

(5) 褒章エントリーに関する事項

(方法・手段)

メンバーの活動への意欲向上のために、福岡ブロックのAwardにエントリーします。

(評価・反省)

褒章については九州地区協議会、福岡ブロック協議会へとエントリーできたが提出できる事業が少なくエントリーに困りました。前年8月から本年8月末までの事業がエントリー一期限となるのでそれを事前に把握してください。

(6) 事務局の管理および備品の整理

(方法・手段)

各種会議の品質向上のために、備品の整理整頓および事務局内の清掃を行います。

(評価・反省)

できる限り事務局に来る時間を早め掃除などを心がけていたが、例会後などに片付けが毎回できず片付けられていない状態も多々ありました。

(7) 予算会議での誤字・脱字に関する事項

(方法・手段)

JCIひびきの信頼を維持するために、予算会議での誤字脱字の修正および予算書の確認を行います。

(評価・反省)

毎回、確認し修正できていましたが、見落としが多く目立ちました。

2. 総評

寺崎専務理事の補佐に関しては、達成できたと思います。もう少し各種大会などのスケジュール確認を寺崎専務理事と話し合い事前に組み込みメンバーに伝達できればよりスムーズに専務理事の設営が行えたと思います。名刺など初めてデザインをしてみたが自分なりに自信をもって出せたと感じました。対内誌やSNSについては、ボリューム感あるできであり、よりリアルタイムに出せたと思うが対内誌に関してはメンバーやシニアの浸透性に欠けた部分もあり全体LINEや例会の報告、シニア役員会議などで頻繁に発信したほうがよかったと思います。委員会につきましてはメンバーと日程が合わず委員会の頻度を増やすことができず動員にかけてしまった部分もあり連絡のやり取りなどメンバーと交流を増やすと良かったと思います。

3. 担当所見

寺崎専務理事所見

事務局就任時入会まもない大庭事務局長でしたので私自身あまり知らない状態でしたので専務と二人三脚でやっていくという中少し不安はありましたが、その不安を払拭する行動力とレスポンスの速さで私の助けとなりました。また、持ち前の負けん気もあり率先した活動、動きをして頂き私自身助けられたことはありました。周りからも認められる立派な委員長だったと断言致します。またこの経験を次の世代へと引き継ぎひびき青年会議所の活力になって頂きたいと願っています。一年間有り難う御座います、そしておつかれさまでした。

早田財政局長所見

大庭事務局長は初めての理事経験ながら、1年間積極的に活動されました。各種大会の動員や設営もしっかりと行い、事務局長として着実に専務理事の補佐を全うしていただきました。また、もともとPCのスキルは全くないと言っても過言ではない状態であったにも関わらず、持ち前の負けん気と向上心によりメキメキと上達し、各種大会の報告資料も上程期限に遅れることなくそつなくこなし、各種会議のスムーズな進行に貢献されました。対内誌においてはペーパーレスとすることで、ページ数にとらわれることなく充実した内容で配信していただきました。一方で、対内誌の閲覧方法がわからないといったメンバーの声があるなど、シニアの先輩方にもどの程度浸透していたのか検証不足な部分があるなどと、いくつ

かの課題が残されていますが、J C I ひびきの運営のデジタル化に向けて大きな一歩となったのではないかと考えます。また、名刺、ネームプレート、ロゴとともにデザインツールに課金するほどデザインにも積極的に挑戦され、そのチャレンジ精神や行動力は他のメンバーにも刺激を与え、今後のJ C I ひびきにとっていい変化をもたらす人材となると確信します。HPや各種SNSの運営においては非常に迅速に対応されており、特にInstagramの投稿頻度や投稿スピードは大変素晴らしく、J C I ひびきのブランディングに大きく貢献したことに疑いの余地はありません。一方で、Twitterに関しては昨年度から運用を開始したこともありノウハウが乏しく、Instagramと比較すると投稿頻度や内容が充実していない部分も見受けられました。この点に関してはどういった運用をしていくのか、次年度にしっかり引き継いでいただいていると確信します。また、HPの投稿内容が対内誌の充実した内容と比較すると若干弱く、HPの運用に関しても充実した内容となるよう入念に指導を行なっていただきたいと思えます。予算会議においては大庭事務局長もしっかり議案の不備を指摘されておりましたが、自身の報告書類や対内誌内で誤字脱字が度々見受けられたことは予算会議を行う立場としては残念な点でした。総評としては、苦手なことや初めてのことにも果敢に挑戦し、特に対応の速さには目を見張るものがありました。課題もありましたが、J C I ひびき全体の価値や士気の向上の一助となったと確信するとともに来期以降の大きな飛躍に期待をしております。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 専務理事の補佐

車を出し、各行事に参加することが多く他のメンバーより出費がかさむことを事前に把握して分担できるよう上長と相談してください。各スケジュール確認は事務局、北崎事務局員がFAXなどで情報が入ると専務に報告するので専務とスケジュール確認を頻繁に行ってください。各種大会などは、FAX等だけでは当日のスケジュールなどわからない部分があるので専務と相談し各種アジェンダで情報等を取得するとよりメンバーに対して明確にスケジュールを発信できるのでしてください。福岡ブロック協議会のHPから大会などの議案が閲覧できるのでPASSWORDを専務理事から教えてもらい参考にしてください。スケジュールに関しては基本専務がおこなうので専務から促された場合はメンバーに全体LINEや例会の報告などでスケジュールを発信してください。

(2) 名刺、名札、会員手帳の発行

予定者の段階で新旧懇親会に仮の名刺やネームプレートが必要なので、次年度が決まり第理事メンバー写真、名刺情報など取得してください。12月上旬には名刺ネームプレートを印刷しないと間に合わないので11月の理事会後には印刷できるようにしてください。手帳に関しては3月総会後には発行できるようにしてください。

(3) 対内誌に関する事項

シニアの先輩方に、活動内容が分かりやすいようにし、シニア役員会議のときなどに専務からシニア事務局長にペーパーレス並びに閲覧方法を伝えるだけでは、中々浸透しないので資料の配布の頻度を多くとることやシニア役員会などで時間をいただき閲覧方法などを説明するなどしてください。例会前などに全体LINEでメンバーに発信するなど閲覧できるようにしてください。また、メンバーに感想やコメントなどを書いてもらいより伝わる工夫をしてください。

(4) ホームページ、SNSの運営

お酒が写る写真などはなるべく避けてJCIひびきのメンバーが活動する風景を多く出した方が良くと思います。他のLOMを参考にするとわかりやすいです。閲覧数の推移や比較を昨年と比較できるようにしてください。Instagramはメンバーの活動がリアルタイムで伝わるのでLOMの活動時に素早く発信するようにしてください。

(5) 褒章エントリーに関する事項

LOMの事業が後半になると同年の事業がエントリーできず前年の事業になるので事業スケジュールを確認してください。前年8月から本年8月末までの事業がエントリー対象となるのでそれを事前に把握してください。褒章の資料やエントリーシートなどを各委員長に配布し褒章の意味を理解してもらい自分の事業や例会がエントリーするかもしれないことを伝えてください。応募期間が概ね8月ぐらいで集中するのでそれまでに審議をとった議案と報告書をだしものかを確認しエントリーしてください。今年度褒章につきましては福岡ブロック協議会に2022年アカデミー委員会事業、なみかけ観光ジョギングを、九州地区協議会地域活性化部門に2022年度地域開発事業、みつけよう！私のまちの魅力を提出しました。

(6) 事務局の管理および備品の整理

例会後など備品が汚くなるので前もって早く来れる日にち等を作って片付けてください。

(7) 予算会議での誤字・脱字に関する事項 議案がない分他の委員会のことを把握し議案に対して向き合えるようにしてください。

5. 実施組織

事務局長 大庭 崇亨 福岡ブロック協議会 アカデミー第一委員会 会計幹事

副事務局長 山下真利枝

委員 石田 瞬

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月	ネームプレート	18,672	18,672		印刷製本費
2月					
3月					
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
合計		¥18,672	¥18,672	¥0	
決算	事業予算 事業収入 決算 残金 (¥18,672 + ¥0) - ¥18,672 = ¥0 (本会計へ)				
備考					

総務委員会

～基本方針～

新型コロナウイルス感染症の蔓延から3年が経ち、JCIひびきもインターネットや、Zoomを使った会議の運営を行うなど、現代の環境に即した運営の仕方を取り入れてきました。しかし、新入会員が増えている現在、接点が少ない環境下でも総務グループが全体に対し情報をスピーディに浸透させ、想いを共有し辻理事長が掲げるスローガンFor the future～今と未来をつなぐ～を基に、会の軸を担う組織となる必要があります。

まずは、総会、選考委員会選挙の出席率を高めるために、総務委員会内で目的を理解し、動員の際に具体的な内容を伝え、一人ひとりの出席の大切さを理解してもらうことで、メンバーがJCIひびきの一員である責任感をもっていただきます。そして、卒業生を次のステージに送り出すために、完璧なセレモニーを行い今までのJC活動をよき思い出として振り返っていただくことで、卒業生最後の事業である卒業例会を素晴らしいものにします。さらに、理事会を円滑に、より意義のある会にするために、議案の提出期限の徹底を委員長に働きかけ誤字、脱字の精査をしっかりと行うことで、各議案の精度を上げ理事会での無駄な時間を無くします。また、各委員長が素早く議案の修正が行えるように理事会後総務委員会全員で議事録作成を行い全体に発信することで、議案作成の一助となります。そして、各種会議を円滑に行うために、上長と連携をこまめにとりメンバーに発信することで、メンバーの参加率の向上、議案作成の質の向上を図ります。さらに、メンバーが意欲的にJC活動を行うために、褒賞の制度を適宜発信することで、目標意識を高めます。

1年間JCの活動を学び、JCIひびきの軸として活動してきたメンバーは知識、行動において、LOM内により影響を与える人材になると確信するとともにLOM外に対してもJAYCEEとしての責任ある行動が明るい豊かな社会の実現に結びつくことを確信します。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

（1）総会（1，3，8月）の開催に関する事項

（方法・手段）

総会、選考委員会選挙の出席率を高めるために、総務委員会内で目的を理解し、動員の際に具体的な内容を伝え、一人ひとりの出席の大切さを理解してもらうことで、メンバーがJCIひびきの一員である責任感を持っていただきます。

（評価・反省）

総会、選考委員会選挙の動員の際、委員会内で会の目的を理解し、共有した上で、動員の声掛けを行うことができました。実質動員率の約65%と低い結果となった点は反省すべき点です。原因としては、自分が参加しなくても委任状出席すればよいだろうと考えているメンバーがいることです。そこに対して、責任をもっていただくよう働きかけることができませんでした。

(2) 選考委員会選挙（6月）の開催に関する事項

(方法・手段)

総会、選考委員会選挙の出席率を高めるために、総務委員会内で目的を理解し、動員の際に具体的な内容を伝え、一人ひとりの出席の大切さを理解してもらうことで、メンバーがJCIひびきの一員である責任感を持っていただきます。

(評価・反省)

選考委員会選挙においても委員会内で動員の声掛け内容を決め、選考委員会選挙の必要性をお伝えしながら動員しました。当日どうしても都合が合わない方に対しては期日前投票には来て欲しいということをお伝えし、5名期日前投票にて投票いただけました。しかし、出席率は76%と満足いくものではありませんでした。

(3) 卒業例会の開催に関する事項

(方法・手段)

卒業生を次のステージに送り出すために、完璧なセレモニーを行い今までのJC活動をよき思い出として振り返っていただくことで、卒業生最後の事業である卒業例会を素晴らしいものにします。

(評価・反省)

卒業生から感謝の声をいただき、またセレモニーもミスすることなくしっかりと行うことができました。しかし、卒業生の入場からステージまでの誘導や、褒賞の際のステージ上の動きでもたつく場面があり、リハーサルや事前の打ち合わせで解消できる部分があったかと思えます。

(4) 予算会議での誤字・脱字に関する事項

(方法・手段)

理事会を円滑に、より意義のある会にするために、議案の提出期限の徹底を委員長に働きかけ誤字、脱字の精査をしっかりと行うことで、各議案の精度を上げ理事会での無駄な時間を無くします。

(評価・反省)

財務担当常任理事、事務局と協力のもと予算会議において誤字、脱字の精査を行うことができ、予算会議のタイミングについては今年度、議案会議と同時に行うという新しい試みをした結果、理事会前に行ったほうがよいという答えがでたことで次年度へ引き継ぐことができました。今年度に関しては、予算会議で指摘したものの理事会までに修正した部分の誤字脱字の確認ができず、理事会で指摘されることになり無駄な時間を全くなくすことはできませんでした。

(5) 議事録の作成および運営に関する事項

(方法・手段)

各委員長が素早く議案の修正が行えるように理事会後、総務委員会全員で議事録作成を行い全体に発信することで、議案作成の一助となります。

(評価・反省)

遅れながらも議事録の作成を行い、記録として事務局に保管することができました。しかし、議事録を理事会後に全体配信することができず、議案作成の一助にはなりませんでした。委員会全員で行うには至らず、全部委員長が一人で作成したため毎回提出が遅くなってしまいました。メンバーに協力を依頼するということができなかったため、人を巻き込むという課題が残りました。

(6) 各種会議の運営に関する事項

(方法・手段)

各種会議を円滑に行うために、上長と連携をこまめにとりメンバーに発信することで、メンバーの参加率の向上に寄与します。

(評価・反省)

上長と連携はとっていましたが、メンバーに対しての発信ができておらず参加率の向上には繋がりませんでした。

(7) 褒賞に関する事項

(方法・手段)

メンバーが意欲的にJC活動を行うために、褒賞の制度を適宜発信することで、目標意識を高めます。

(評価・反省)

1月度総会にて褒賞の案内を行いました。また今年度は推薦状を用いて、委員長に推薦していただき対象者を選定する流れで行いましたが、メンバーに対し意欲的に活動してもらうために適宜発信するということはできていませんでした。

(8) 出向に関する事項

(方法・手段)

出向に対する意欲を生むために、出向者の情報を発信し、共有することで、次年度以降に出向に対する前向きな体制をつくります。

(評価・反省)

私自身出向できておらず、出向者の話は聞き、出向のメリットや出向することによってメンバーが刺激を受け、JCのスケールメリットを感じることはできましたが委員会メンバーに対してその情報を共有できず、次年度への出向につなげる動きはできていませんでした。

(9) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

各種大会への参加者を増やすために、メンバーに各種大会の情報を伝え、動員し、参加できない方には参加者が情報共有することで、委員会内の向上心にアップにつなげます。

(評価・反省)

私自身出席可能な大会には積極的に参加し、各種大会について学ぶことができた点はよかったです。また、全国大会には副委員長の湯浅君も出席してくれた点は評価すべき点ですが、その他の委員会メンバーへ発信するも向上心のアップにつなげるまでには至りませんでした。

(10) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

会員拡大を行うために、J Cの魅力を理解し発信することで、自分の周りの人にひびき青年会議所の存在をアピールします。

(評価・反省)

私自身J Cの魅力を発信し2名ほど竹内副理事長、金城委員長と面談を行っていただきましたが、入会に繋がりませんでした。メンバーに対しても委員会の出席率が低くJ Cの魅力を理解する機会を作ることができず、拡大につなげる動きができませんでした。

(11) 毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

委員会内での絆を強くするために、委員会同士で協力しより良い委員会運営に役立てます。

(評価・反省)

副委員長とはこまめに連携し、毎月委員会開催の際には事業の打ち合わせや準備を協力して行ってきました。それ以外のメンバーとは委員会の開催もままならず、絆を深めることもできませんでした。中盤から、連絡しても欠席するという返答や、そもそも電話にでないというメンバーもいたため、最終的には声をかけることもしなくなりました。このような状況になる前に、なぜ事業や例会に来ないのか理由を聞き、どうすれば来ることができるか話し合うか、来ることができないのであれば休会や退会を勧める必要がありました。

2. 総評

1年間を通じて、委員会では副委員長とは密に関り、共に事業構築することができましたが、それ以外のメンバーとはまともに関わることができませんでした。事業に関しては、総会、選考委員会選挙と行ってきましたが、毎回委任状の数え方と出席人数の数え方でもたつい

てしまい、今年度ではスムーズに行くことがなかったため、次年度に引継ぎ同じ過ちを侵さないよう引き継いでいきたいと思います。最後の卒業例会では今まで以上に準備や確認を行ったこともあり、比較的滞りがなく開催することができました。卒業生にも感謝の言葉をいただき最後は綺麗に締めることができた1年となりました。

3. 担当所見

寺崎専務理事

藤森委員長はひびき青年会議所の裏方を屋台骨となりLOMを支えて頂きました。他の委員長のミスも俊敏な対応をしてくれてみんなの目に見えていない所での動きを見て、これからのひびき青年会議所に必要な人間であると、私自身肌で感じることの出来た一年でした。しかし忘れっぽい性格もあり自身の弱点も多く見つかった一年だと思います。この経験を活かし次年度へと皆の中心となり活躍を期待しています。一年間有り難う御座いました。

早田財政局長

藤森委員長は2度目の理事ではありますが、委員長としては初めての役を1年間無事にまっとうされました。総務委員会として総会や選考委員会選挙を担当され、PCスキルや議案作成能力はあるものの、引き継ぎ事業であることから自分の色を出しにくい面があり、事業構築には大変苦労されている様子でした。家族の時間を大事にされていたり、仕事柄急な顧客対応等が発生するなどしていたためかタイムマネジメントが苦手な部分が見受けられ、上程期日を守れないことが多々あり各種会議では厳しい叱咤を受ける場面もありましたが、それでも夜中に議案作成の時間を作ったり、遅れても資料の提出はしていたりと、役を放棄することなくなんとか最後まで食らいつき、藤森委員長なりに努力しており、改善の余地は多くありますが裏を返せばまだまだ伸び代があるということでもあり、来期以降の活動に期待を寄せております。卒業例会では、議案の対応や進捗が遅く、各会議でも厳しい言葉を浴びせられたりもしましたが、メンバーの皆様のご協力のおかげもあり当日の設営は大きなミスもなく進行することができました。結果としては卒業生のお二人にも感動していただけることができ、しっかりと目的は果たせたと確信しております。予算会議においてはしっかりと修正対応された議案のチェックをされ、私が議案会議に出席し予算会議に参加できない間は大庭事務局長とともに他委員長に指摘を行い、理事会の円滑な進行の一助となりました。各種大会においては委員会メンバーの動員は弱かったものの、多くの大会に積極的に参加され、ムードメーカーとして他メンバーの士気やモチベーションの向上に一役買っていたのではないかと考えます。総評としては、メンバーを巻き込むことが苦手なことでひとりでこなすことがあり、また、タイムマネジメントが苦手なこともあり対応が後手に回ることが目につきましたが、へこたれずに最後までやり通した経験は藤森委員長にとって今後の成長につながると考えております。課題はありますが、藤森委員長の高いポテンシャルを発揮できる環境に身を置くことができれば、JCIひびきにとってかけがえのない人材

へ成長すると確信しております。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 総会（1，3，8月）の開催に関する事項

毎回委任状、定足数の確認でもたついてしまうため、途中入室不可にするか、人数を把握する役割の方を設け対応してください。また、委任先のメンバーを上長に決めることで、事前にエクセルで表を作成しておけば、数え間違いもなくなると思います。また、委員会ごとの出欠を確認する際に、個人名をあげて出欠確認すればより間違いが少なくなると思います。入会して浅い方は特に1月、3月、8月の総会の趣旨を理解しづらいため、それぞれの総会の趣旨を動員時や、総会時に発信するようにしてください。動員と委任状の回収に苦労するため、動員や委任状の郵送の促進は委員会内で分担し複数回行ってください。8月の総会では次年度役員候補者の方には絶対に出席するよう依頼してください。次年度予算面で工面する必要があるれば、3月総会の報告書はWEB配信でよいかと思います。

(2) 選考委員会選挙（6月）の開催に関する事項

総会同様、動員に苦労するため複数回動員すること、直前でもメンバーに声かけを行ってください。

(3) 卒業例会の開催に関する事項

リハーサルでは登壇者の方は全員時間には集ってもらい、一通り流れを通して行わないと細かい部分について本番でもたついてしまうので、動員の際にしっかりお伝えし時間には集ってもらってください。会場との打ち合わせでも、事前にムービーや音楽は会場で流して文字の大きさや音楽の出だしの部分など確認してください。卒業生には当日、現役メンバーに向けての答辞があることを忘れず事前にお伝えしてください。

(4) 予算会議での誤字・脱字に関する事項

今年度については、予算会議から理事会の間までに修正した内容が確認できないこともあり、理事会でその部分の誤字脱字が指摘されることが多々ありました。次年度においては、予算会議でできあがった議案をそのまま理事会に提出する仕組みとなったため、この問題点は解決されるかと思えます。総務、事務局、財政局長で予算会議を行っていましたが、次年度は事務局が無くなったため、総務委員会の副委員長も協力いただくなど検討したほうがよいと思います。また次年度はその場で修正まで終わらせるので、議案提出期限を委員長に守らせ、事前に修正シートを作成し、予算会議の日は修正に時間を使えるようにするとスムーズに行えます。

(5) 議事録の作成および運営に関する事項

議事録に関しては、委員会メンバーが理事会に参加できる場合はメンバーに理事会中入力してもらい後日、仕上げるような流れがよいと思います。または、音声認識で入力するソフトを活用することで、タイピングが苦手な方は多少労力を軽減できます。また、議事録を配信するまでのスケジュール管理を上長と共有し、進捗が遅れない工夫をしてください。

(6) 各種会議の運営に関する事項

各種会議については、会議資料の提出ができていないと成り立たないので資料の提出期限の厳守を上長とともに委員長ライン、全体ラインにて発信し、提出ができない委員長については上長と議案を作成する日程を決めさせ、その日に議案を提出してもらうなど強制的な措置をとる必要があります。また委員長に対して、予定者の段階から副委員長、メンバーを絡めて議案作成をするような働きかけを促進していく必要があります。

(7) 褒賞に関する事項

褒賞についてはあらかじめ、1月、3月、6月、8月と総務の事業月に例会時に発信するようにした方がよいと思います。褒賞の基準についても総会資料と同じようにライン配信するとよいかと思えます。褒賞記念品については担当委員長が褒賞対象メンバーの記念品を選び、メンバーに対して感謝の気持ちを伝える場であること理解してもらってください。

(8) 出向に関する事項

委員長がブロックなどに出向し、自身が出向することで出向の魅力を感じ、メンバーに発信することができれば理想ですが、自身が出向できないのであればブロック大会や、九州コンファレンスに参加し、ブロックの事業に触れ、そういった参加しやすい事業にメンバーを誘うことから行くとよいかと思えます。

(9) 各種大会への参加に関する事項

前項でも記載したとおり、イベントとして福岡の別のエリアで開催されるブロック大会や、九州コンファレンスは事業としての目線で参加しても勉強になりますし、単純に遊びに行く感覚でも参加できるため、まだ各種大会に参加したことがないメンバーでもハードルが低いですし、子どもと一緒に参加できるようなイベントになっているため、家族で気軽に参加できるものとなっているので、積極的に経歴が浅い方にもお声かけしていくとよいかと思えます。また参加することで、ブロックに出向しているメンバーへの協力の意味合いもあるため、そういった面からお声かけするとよいかと思えます。

(10) 会員拡大に関する事項

まずは自分が青年会議所に所属してメリット、デメリットを理解し、言葉で説明できるようにする必要があります。青年会議所のよいところがなんとなく頭でわかっても興味

をもってもらいように言葉で伝えることができるようになる必要があります。まずは委員会メンバーで青年会議所の魅力を共有する必要があります。

(11) 毎月の委員会開催に関する事項

委員会や例会に参加しないメンバーを巻き込むことが課題としてありますが、まずは委員長が来ないから動員するのを諦めるのではなく、毎月必ず委員会の開催、動員を行うことが大切だと思います。そして、上長や入会時の紹介者を巻き込んで動員をかけてもらい、接点を多くすることで関係性を構築し、委員会に参加しやすい場づくりをしてあげる必要があると感じます。

5. 実施組織

委員長	藤森	宏明
副委員長	湯浅	允斗
委員	梶栗	裕太
	鐘ヶ江	将
	村上	賢治
	米村	恵義

(委員50音順)

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月	1月度例会・総会	45,000	39,471	0	横断幕、はがき、郵送費、会場費、支払手数料
2月					
3月	3月度通常総会	50,000	42,390	0	横断幕、はがき、郵送費、報告書製本費、会場費、支払手数料
4月					
5月					
6月	6月度例会・選考委員会選挙	15,000	13,480	0	横断幕、会場費、支払い手数料
7月					
8月	8月度例会・臨時総会	30,000	26,549	0	はがき、郵送費、会場費
9月					
10月					
11月					
12月	卒業例会 110,000円 褒賞 30,000円	140,000	102,126	0	花束、オリジナルメッセージ写真、記念品、額縁、会場費、支払手数料
合計		¥280,000	¥224,016	¥0	
決算	事業予算 事業収入	決算		残金	
	(¥280,000 + ¥0)	- ¥224,016 =		¥55,984	(本会計へ)
備考					

青少年育成委員会

～基本方針～

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症は、現在も衰えず私たちの生活に影響を与え急激な変化を余儀なくされるなかで、ひびきエリアに住み暮らす子供たちが未来を自らの手で切り開いていくには、子供たちが何事にも挑戦していける気持ちを築きあげることが求められています。私たちJCIひびきが地域と連携を取り子供たちが活躍できる場を築きあげ、未来を担う子供たちの社会への輩出をサポートしていく必要があります。

まずは、メンバーの出席率を上げるために委員会開催するごとに次回の日程を決めることで、メンバーに意識付けを行います。また、青少年事業では挑戦することの楽しさを知ってもらうために、協力しないと達成できない目標を作ることで思いやる気持ちや向上心を育みます。そして、わんぱく相撲では夢をもつ楽しさを学んでもらうために、引率することで努力する大切さや目標を達成した喜びを感じてもらい挑戦する心を育みます。さらに、4月例会は青少年事業を行う意義を改めて知るために、教育関連に詳しい講師を招くことで、子供たちを取り巻く環境や現状を理解することができます。また、卒業パーティーでは現役メンバーや卒業するメンバーに感謝の気持ちを伝えるために、お礼の言葉を述べることで感動的な設えができます。そして、出向に関しては出向者をサポートするために定期的に連絡をとることで現状を把握し協力ができます。さらに、メンバーに参加してもらうために、私自身率先して参加することでメンバーを巻き込みます。また、会員拡大では会の力を付けていくために、周りにアンテナを張ることで会員拡大をサポートします。

子供たちがこの先訪れる課題に対して様々な経験から挑戦する強い気持ちをもつことができ、広い視野から解決策を導けるとともに、メンバーもチャレンジする大切さを知り、時代とともに移り変わるこの環境でも、さらに成長し「明るい豊かな社会」を実現します。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

（1）青少年育成事業の企画運営に関する事項

（方法・手段）

青少年事業では挑戦することの楽しさを知ってもらうために、協力しないと達成できない目標を作ることで思いやる気持ちや向上心を育みます。

（評価・反省）

青少年事業では子どもたちが経験したことの無いプログラムを基に事業構築し行いました。その中で子どもたちがこの経験を基に将来に向かって頑張っていきたいとの声が多く事業は成功と思います。ですが事業構築が甘く登山ルートの変更や施設側との打ち合わせ不足が目立ち事業構築の点では反省が多く残ります。

（2）わんぱく相撲の引率に関する事項

(方法・手段)

わんぱく相撲では夢をもつ楽しさを学んでもらうために、引率することで努力する大切さや目標を達成した喜びを感じてもらい挑戦する心を育みます。

(評価・反省)

わんぱく相撲では子どもたちが努力した結果が十分に発揮され素晴らしい功績だったのでうれしく思いました。その中で相撲部屋の方々に子供たちが恥ずかしがって質問があまりできなかったのも、子どもたちと相撲部屋の方たちがもっと触れ合える時間を提供できるように事前に打ち合わせを行い、積極的に質問できるような時間を作ってあげれば良かったなと反省も残ります。

(3) 例会(4月)の開催に関する事項

(方法・手段)

4月例会は青少年事業を行う意義を改めて知るために、教育関連に詳しい講師を招くことで、子供たちを取り巻く環境や現状を理解することができます。

(評価・反省)

青少年事業につながる何事も経験してみる大切さを知るよい例会でした。ですが経験談がメインの講演だったので打ち合わせを十分に行い青少年事業に直結する講演内容も入れておけばよかったと反省が残ります。

(4) 卒業パーティーの開催に関する事項

(方法・手段)

卒業パーティーでは現役メンバーや卒業するメンバーに感謝の気持ちを伝えるために、お礼の言葉を述べることで感動的な設えができます。

(評価・反省)

卒業パーティーでは卒業生の方々からありがとうという言葉をもらい、感動的な設えができたと感じます。しかし、シニアの先輩方との交流があまりできなかったのも席の位置を考える等もっと工夫を行い、事業を行えばよかったと反省も残ります。

(5) 出向に関する事項

(方法・手段)

出向に関しては出向者をサポートするために定期的に連絡をとることで現状を把握し協力ができます。

(評価・反省)

委員会の中から日本JCやアカデミーに出向した方がおり現状把握の連絡を取り合い、委員会メンバーにこのようなことが行われているという周知が行えたのは良かったと感じます。ですが私自身は出向しておらず出向した委員会メンバーを現地でサポートできなかつ

ったのは反省が残ります。

(6) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

メンバーに参加してもらうために、私自身率先して参加することでメンバーを巻き込みます。

(評価・反省)

私自身があまり各種大会へ参加することができなかったので、メンバーを巻き込むことができませんでした。もっと参加し、各種大会の魅力を知ったうえでメンバーも動員すればよかったと反省が残ります。

(7) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

会員拡大では会の力を付けていくために、周りにアンテナを張ることで会員拡大をサポートします。

(評価・反省)

委員会時にオブザーバーの確認など会員拡大に関して委員会内で話したことは良かったと思います。ですが、オブザーバーを紹介できずもっと会員拡大委員会と連携を取っていればよかったと反省も残ります。

(8) 毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

メンバーの出席率を上げるために委員会開催するごとに次回の日程を決めることで、メンバーに意識付けを行います。

(評価・反省)

委員会を開催し次の日程を決め出席率が良かったのは良かったと思います。ですがまったく来ないメンバーには直接会いに行き動員など行えば良かったと反省が残ります。

2. 総評

今年度青少年委員長を受けて個人的にすごく成長できたと感じます。ただ、私自身議案を構築するうえで足りないものがあり、自身の能力不足を感じることも多々ありました。また、上程期限をあまり守れず、上長にも沢山迷惑をかけてしまいましたので、今後時間管理を徹底して行っていきます。そして、青少年事業を終えて自信がついたとの声を子どもたちから聞けたことで、事業を行ってよかったと感じています。この経験をもとに今後の人生に活かしていきたいです。

3. 担当所見

竹内副理事長所見

山本委員長、1年間お疲れ様でした。今年度、青少年事業と卒業パーティーの2つの重要な事業を担当していただき、心から感謝しています。青少年事業においては、昨年の委員長からのアドバイスも受けながら、計画の変更に苦慮しましたが、最終的には8月に事業計画が審議可決を得られたことは大きな成果です。急な変更により障害が生じたかもしれませんが、見事な事業の成功は素晴らしいものでした。委員長自身も反省点があるかもしれませんが、これを生かし、今後の活動に存分に活かしてください。卒業式では、送辞にて私が一番感動したのですが、これからも長い青年会議所の活動の中で、山本委員長が感動する素晴らしい瞬間がたくさん訪れることを期待しています。そして、この1年間で得た知識や経験は、山本委員長が将来の活動において重要な指針となります。これらの貴重な経験を心に留め、次年度に向けて更なるステップアップを果たしていくことを期待しています。お疲れ様でした。次なるステージでも、山本委員長の輝くリーダーシップを期待しています。

行正常任理事所見

1年間お疲れ様でした。今年度、3つの事業、4月例会と青少年事業と卒業パーティー担当していただきました。青少年事業に関しては、昨年の予定者の時から事業を計画し、8月に事業計画の審議可決を得るまでに計画の大きな変更などがあったと思います。事業構築から事業当日までの間にうまくいかなかったことのほとんどが、自身の議案構築のスケジュール管理、議案に対してのモチベーションの管理、そして、事業計画に対し緻密に考え何が起るかを想定しておくことが足りていなかったことが原因だと考えています。より几帳面さを習得することを今後のJC生活の目標にしてみたいと思います。しかしながら、青少年事業にて委員会メンバーをよく巻き込めていたことや青少年育成委員長を必ずやり遂げるという気持ちが切れなかったことはすばらしかったと思いますし、自信としてください。誰しも委員長は失敗の経験を積みます。この経験を忘れずに、次年度はより自身が成長することを期待しています。

原室長所見

予定者段階から青少年事業への意欲は高く年当初から山本委員長らしさのある議案を作成していき、周りを巻き込みながら構築して、山本委員長の甘え方の上手さに私も勉強させられました。しかし議案を構築してくにつれて課題が増えていき、山本委員長が描いていた青少年事業はできませんでしたが、ゼロから作り直した議案にも最後まで諦めずにやり抜いたからこそ事業当日みんながあそこまで協力してくれた事は、今後の山本委員長の自信につながると思いますし、糧にしてください。1年間を通して、議案がなかなか期日までに間に合うことが少なくルーズな点も見られましたが例会、青少年事業、卒業パーティーと、3本の重荷のある議案を持ち年間を通して休む事なくやり抜いた事は素晴らしいと思います。

この 1 年間の経験を今後の J C 活動や社業に活かして頑張ってください。1 年間お疲れ様でした。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 青少年育成事業の企画運営に関する事項

青少年育成事業は一人で議案構築、事業を行うことはできないので、事業構築時から必ず動員を行い役割を伝え参加してもらうようにしてください。また、現地での事前確認が甘いと事故の基となるので事前確認は委員会メンバー以外にも L O M メンバーに参加してもらい事前確認を行ってください。

(2) わんぱく相撲の引率に関する事項

わんぱく相撲では東京に子ども達を引率するので事前のスケジュール確認を怠らないようにし、大人としてお手本となるよう行動してください。

(3) 例会（4 月）の開催に関する事項

講師を招く際は講演内容が青少年事業に関係しているのかを確認してください。

(4) 卒業パーティーの開催に関する事項

シニアの先輩方と交流ができるように席の位置を考えて配置してください。

(5) 出向に関する事項

出向者が委員会内にいる場合は連絡を取り合い委員長が参加したほうが良いのか確認し参加してください。

(6) 各種大会への参加に関する事項

各種大会には委員長が率先して参加しなければならないところに参加できず委員メンバーを率いての参加はできませんでした。なので、年間スケジュールを確認し各種大会に参加できるようにし委員会メンバーを巻き込み参加できるように心がけてください。

(7) 会員拡大に関する事項

委員会の際、オブザーバーの確認を行いました但し青少年育成委員会メンバーから紹介の新入会員はいませんでした。なので、会員拡大委員会と連携を取り加入しそうな方には会員拡大委員会委員長を交えるなどし、会員拡大できるよう努めてください。

(8) 毎月の委員会開催に関する事項

委員会を行う際は場所時間を早めに伝え参加しやすい状態を作ってください。また参加

していないメンバーには委員会で何を話したなど共有してください。

5. 実施組織

委員長	山本	祥平	
副委員長	黒川	凌雅	公益社団法人日本青年会議所組織グループJC未来創造会議 委員
委員	上田	理子	
	北島	絹恵	
	文岩	栄貴	
	三宅	ゆかり	

(委員50音順)

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月					
2月					
3月					
4月	4月度例会	50,000	49,318		横断幕、謝礼金、会場費、手数料
5月					
6月					
7月					
8月					
9月	青少年事業	500,000	654,144	198,660	運営費、バス代、郵送費、チラシ、謝礼金、保険料、会場費、手数料
10月					
11月					
12月	卒業パーティー	70,000	55,591		集合写真、花代、郵送費、手数料
合計		¥620,000	¥759,053	¥198,660	
決算	事業予算 事業収入		決算	残金	
	(¥620,000 + ¥198,660)		— ¥759,053 =	¥59,607 (本会計へ)	
備考					

会員拡大委員会

～基本方針～

J C I ひびきは、近年の安定した会員拡大を維持できていますが、継続的な会員拡大を行っていかねば、地域の発展へと貢献する人財が減るとともに組織が弱体化し、J C I ひびきとしての目的を果たし続けることが容易ではなくなります。当委員会が先頭に立ち、会員一人ひとりがJ C I ひびきの魅力の発信者となるとともに、全会員一丸で、想いを共に活動する新たな多種多様な人財を一人でも多く迎え入れ続けていくことが必要です。

まずは、全メンバーが自発的に会員拡大を推進するために、委員会訪問を行い会員拡大の情報を共有し、細かな情報を収集することでリストを細分化し、入会候補者のもとへ紹介者と共に訪問し入会へと繋げます。そして、新入会員と密に連絡をとり不安を軽減させ、各事業への参加を促し、責任を持ってフォローすることで、一人ひとりと向き合い、未来のJ C I ひびきを担う人財を育成してまいります。さらに、新入会員には入会后、不安なく活動に参加できるよう、青年会議所の基礎知識、活動、運動の意義や各委員会の活動内容を認識してもらう新入会員セミナーを行い、新入会員がJ C I ひびきにより早く馴染んでいただくこととなります。また、より多くのオブザーバーを集めるために、自己成長意欲が喚起されるテーマで講演会を開催し、その中でメンバーが我々の運動の魅力を発信していくことで、全メンバーでの会員拡大を実現していきます。そして、会員拡大をスムーズに行うため、年の初めにパンフレットを作成しておくことで、入会候補者のもとに訪問した際にJ C I ひびきの活動、運動をより説明しやすくなり拡大につなげやすくなります。

当委員会は、J C I ひびきの魅力を相手の立場を考え発信することで思いやりのある人間へ成長します。新たな出会いの中で人との繋がりの大切さを学び、仲間を増やし今以上に絆の強い組織へと率先して導くことが、明るい豊かな社会の実現に繋がると確信します。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

（1）新入会員の拡大と入会に関する事項

（方法・手段）

入会候補者を入会へとつなげるために、入会候補者の情報を収集することでリストを細分化し各委員会と会員拡大の情報共有を行うことで、全メンバーが自発的に会員拡大を推進します。

（評価・反省）

2月の拡大例会までは、各メンバーからの入会候補者の情報を収集することがスムーズに行えたことは評価できる点です。ですが、その後、他人に頼むことができない自分の弱い部分が出てしまい、各委員会に協力を促すことを継続的にできずに入会候補者の情報を収集が上手くいかず、さらに情報共有ができずに、全メンバーが自発的に会員拡大をするには至らなかったのが反省点です。

(2) 新入会員セミナーに関する事項

(方法・手段)

新入会員を入会后、不安なく活動に参加させるために、J Cとしての活動、運動の意義や各委員会の活動内容を認識してもらう新入会員セミナーを行い、新入会員がJ C I ひびきに早く馴染むことができます。

(評価・反省)

入会后、新入会員セミナーを行い参加していただき、活動内容などを認識できたと新入会員の方に言っていた事は、評価できる点です。ですが、参加できなかったメンバーもおります。入会后、新入会員のスケジュールを確認し日程を確実に押さえ、素早く新入会員セミナーを行えば熱が冷めないうちにセミナーに参加していただけたのではないかと思います。その方にJ Cとしての活動、運動の意義や各委員会の活動内容を認識してもらうことが出来なかったことが反省点です。

(3) 会員拡大例会（2月）の開催に関する事項

(方法・手段)

多くのオブザーバーを集めるために、自己成長意欲が喚起されるテーマで事業を行い、L O MメンバーがJ C運動の魅力を発信していくことで、全メンバーでの会員拡大を実現します。

(評価・反省)

2月の拡大例会では、メンバーの協力のもと多くのオブザーバーの動員ができた事、また講師で招いた榎田先輩の講演はL O Mメンバー、オブザーバーにも素晴らしい講演だったと言っていた事、その例会の計画、設えは評価できる点です。ですが、その後各メンバーと連携が上手く取れず参加いただいたオブザーバーを入会に持ち込めず、全メンバーでの会員拡大が実現できなかったことが反省点です。

(4) 拡大パンフレットに関する事項

(方法・手段)

会員拡大を円滑に行うため、年の初めにパンフレットを作成することで、入会候補者のもとに訪問した際にJ C I ひびきの活動、運動をより説明しやすくなり拡大につなげやすくなります。

(評価・反省)

パンフレットの作成は入会候補者のもとに訪問した際に、より分かりやすい様な仕上がりになり説明しやすくてできたのは評価する点です。ですが、説明の際に相手が興味を持っていないような事業の内容を把握しより細かく説明できず入会に至らなかったのが反省点です。

(5) 出向に関する事項

(方法・手段)

委員会メンバーに各種大会の参加や各種出向してもらうために、責任を持って向き合うことで、

J C I ひびきを担う人財を育成していきます。

(評価・反省)

私自身、福岡ブロック協議会に出向したことは評価できる点です。ですが、日程を合わせる事が難しく、参加できなかったのが心残りです。また、委員会メンバーにもっと声をかけ巻き込めたのではないかと思うのが反省点です。

(6) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

委員会メンバーに各種大会の参加や各種出向してもらうために、責任を持って向き合うことで、J C I ひびきを担う人財を育成していきます。

(評価・反省)

各種大会に私自身が積極的に参加したことは評価できる点です。ですが、委員会メンバーに声をかけ巻き込めていたかと言われるとできていなかったのが反省点です。

(7) 毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

団結力の高い委員会にするために、委員会後に懇親会を取り入れることで、委員会の参加率が上がります。

(評価・反省)

委員会は、毎月開催できたことは評価できる点です。ですが、後半の方は日程の調整が上手くいかず、例会後に行う程度になってしまったのが反省点です。

2. 総評

会員拡大委員会として全くもって機能しなかったと反省が残ります。2月の拡大例会では委員会メンバーと協力し、素晴らしい講演の設えができたと思います。ですがその後、拡大担当としてメンバーを頼らずオブザーバーリストを埋めようと努力しますが、なかなかオブザーバーリストが埋まらなく拡大に苦戦しました。私は、全メンバーと連携を取り協力を促すなど他のメンバーを頼るなどが苦手な自分の弱さを痛感しました。今年度後半の方は少しメンバーを頼ることができ、オブザーバーを紹介していただけるなど、入会につながるようないい兆しが見えてきました。来年度の委員長にしっかり引継ぎできるようにしたいと思います。今後のJ C 活動の中で、前向きにその弱さを克服していけるように活動していこうと思いました。来年度は、日本青年会議所の方に委員として出向しますのでLOMでの反省点などを活かして成長する機会にできたらと思っています。

3. 担当所見

竹内副理事長所見

1年間、会員拡大委員会の皆さま疲れ様でした。今年度のひびきJCに新しく加わった7名のメンバー、本当におめでとうございます！計画に対しては挑戦的でしたが、新しい仲間たちとともに、未来に向けて一歩ずつ進んでいくことが大切です。また新入会員セミナーを通じて、将来ひびきJCを牽引していくであろうメンバーの育成に貢献されたことは素晴らしいことです。これからも拡大委員会の活動が、ひびきJCの未来を築く重要な一翼を担っていくことでしょう。そして金城委員長、入会者7名の中にあなたが引き入れたメンバーがいることは、あなたのリーダーシップと尽力の賜物です。本年度入会した仲間たちが例会や事業で活躍できるよう、引き続きサポートしていきましょう。金城委員長はまだ若く、今年はリーダーシップを発揮できなかったかもしれませんが、同世代の中で委員長を経験し、成長の機会をつかむことができました。今後の青年会議所活動に期待しています。

行正常任理事所見

1年間お疲れ様でした。今年度の新入会員の入会は7名でした。計画に対して下回ったことは反省することが多いと思います。拡大委員会が入会に導き新入会員セミナーを行ったメンバーが将来のひびきJCを引っ張っていくとすると、毎年の拡大委員会の活動が今後のひびきJCを担っていると言っても過言ではありません。そういった認識が弱く、金城委員長の頑張りが誰かのためになり、また、おろそかにすると誰かに迷惑をかけるという責任感に欠けていたと思います。本年入会したメンバーは金城委員長が入会させたメンバーです。今後も、本年の新入会員が例会や事業で活躍できるように気にかけてください。そして金城委員長はまだ若く、今年はリーダーシップを発揮できなかったかもしれませんが、同世代のなかでは委員長を早く経験し、振り返ったときに成長につながった1年になっているはずです。今後、同世代を束ねるリーダーになることを期待しています。

原室長所見

会員拡大委員会委員長として結果を残してくれてありがとうございました。最初はなかなかうまく拡大もいかず落ち込むことも多々ありましたが最後に新入会員を増やすこともでき、委員長としての仕事を最後まで諦めることなくやりきってくれたと思います。委員長自身、人を巻き込むことの大変さや、期日通りにスケジュールを進めることの大変さをこの1年間でとても勉強になったと思います。この1年間で体験したことは社業でも通用してくることだと思いますので経験した事を糧に今後も頑張ってください。1年間お疲れ様でした。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 新入会員の拡大と入会に関する事項

会員拡大委員会だけでなく、各委員長、もしくはその上長からオブザーバーの情報をもらえるように他の委員会にオブザーブし、毎月の理事会でも促すことを徹底してください。また、拡大戦略会議を積極的に行ってください。

(2) 新入会員セミナーに関する事項

入会后、速やかに動員を行い、新入会員と日程を調整し、スケジュールを確実に押さえることによって、参加率の向上を図ってください。

(3) 会員拡大例会（2月）の開催に関する事項

拡大例会では、講師の方を招くと思いますが、講師の方に失礼のないような設えをしてください。また、オブザーバーが多く参加する例会となっていますので、講師と当日の講演内容がオブザーバー、メンバーともに響くような構成をしてください。

(4) 拡大パンフレットに関する事項

拡大パンフレットに事業などの写真を添付すると思いますが、入会候補者がどの事業に興味を持つかは様々なので、添付する事業の内容は事業内容をしっかり把握し説明できるようにしておいてください。また、今年度の場合パンフレットは200枚発注し100枚近く余りましたが、発注前で100名以上アプローチすることが決まっているのであれば、紙の印刷はさほど予算も高くないので200枚の発注でいいと思います。上長などと検討よろしくお願いします。また、他団体では3年間パンフレットの使い回しなどがあるということなので理事長挨拶文を消すなどして、3年間使い回すなど検討お願いします。また、WEBページ用の入会募集ページを作成するなど検討してください。

(5) 出向に関する事項

委員長自身が積極的に出向する姿勢を見せ、委員会メンバーが出向したいと思えるように委員会などで、声をかけるようにしてください。

(6) 各種大会への参加に関する事項

委員長自身が積極的に各種大会に参加する姿勢を見せ、各種大会の趣旨を委員会メンバーに説明し、動員を行ってください。

(7) 毎月の委員会開催に関する事項

委員会メンバーと話し合い、空いている日程を把握し、開催日を早めに決めてください。

5. 実施組織

委員長 金城一聖 公益社団法人日本青年会議所九州地区福岡ブロック協議会 22LOM協働委員会 委員

副委員長 松井 康

委員 新垣 成飛

佐藤 竜矢
重信 佳南 公益社団法人日本青年会議所組織グループJ C教育推進委員会 委員
中本 茂生
花田 康成
山本 凌士 公益社団法人日本青年会議所組織グループJ C未来創造会議 委員
(委員50音順)

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月	拡大パンフレット	55,000	55,550	0	デザイン・印刷費
2月	2月度拡大例会	80,000	71,229	0	運営費、旅費交通費、切手代、横断幕、謝礼金、会場費、支払手数料
3月					
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
合計		¥135,000	¥126,779	¥0	
決算	事業予算 事業収入	決算		残金	
	(¥135,000 + ¥0)	- ¥126,779 =		¥8,221	(本会計へ)
備考					

会員開発委員会

～基本方針～

新型コロナウイルス蔓延において、見出された新たな価値観や手法はすでに常態化されつつある昨今、日々変化する社会情勢や時代の急速な変化に反応し、順応していくことが求められます。私たち会員開発委員会は、固執した考えにとらわれることなく生み出された新たな価値観や多種多様な考えを尊重し受け入れられる人材の育成や、JC活動・JC運動の本質を理解し、メンバー一人ひとりのさらなる資質向上を促進する必要があります。

まずは、委員会の出席率を高めるために、メンバーと対話や意見交換を繰り返し行うことで、信頼関係が生まれ参加意欲が向上します。そして、これからの時代を担う人材へと成長するために、テーマを「ひらめき・言葉の力・多様性」と設定することで、新たな価値観を創造します。さらに、LOMの歴史をつなぐために、諸先輩方の話を聞き、交流を深めることで、メンバーの意識改革へとつなげます。また、第1エリアの絆を深めるために、他LOMと情報交換で新たな価値観を見出すことで、LOMの活性化につなげます。そして、メンバーにJC活動を前向きに行ってもらうために、JCI公認プログラムを活用し、JAYCEEとしての知識習得、多種多様な考えや自分の良さを見出すことで、自己肯定感が向上します。さらに、メンバーの新たな可能性を見出すために、積極的に出向を促すことで、組織力の向上につながります。また、経験値の向上を図るために各種大会への参加を促すことで、対話や交流の機会が増え団結力が高まります。そして、会員拡大を促進するために、会員拡大委員会と連携し情報共有することで、拡大意識が向上します。

時代に取り残されず前向きに活動する意識が向上されたメンバーは、JAYCEEはどうあるべきかという本質を理解し、新たな考えを取り入れ一人ひとりが固執した価値観にとらわれることなく、多種多様な価値観を受け入れることでよりよい組織へと進化します。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

（1）例会（5、7、9、11月）の開催に関する事項

（方法・手段）

これからの時代を担う人材へと成長するために、例会のテーマを「ひらめき・言葉の力・多様性」と設定し、1年間をとおし学ぶことで、新たな価値観を創造します。

（評価・反省）

5月度例会では、ひらめきをテーマとしてゲームを通じてメンバー全体で柔軟性を身につけ7月度の例会は、直前会頭の講演を聞き入会前のJCに対する認識はネガティブな印象が大半を占めましたが、今後のJC活動への取り組みについての解答に、前向きに率先・挑戦などのポジティブな意見へと変化しました。11月度例会は、多様性について学んでいただくことでメンバー一人ひとりがジェンダー平等など新たな価値観が生まれたと確信しております。例会のテーマを1年間通し学んでいただくことで、メンバー全体に新たな価値

観とJC活動を通じてのスキルアップにつながったと思います。例会での動員率が最後まで出席率が至らず直接メンバーに会って動員を行うなど積極的に行えなかったことが反省です。

(方法・手段)

L O Mの歴史を現在と未来につなぐために、諸先輩方の話を聞き交流を深めることで、メンバーの意識改革へとつなげます。

(評価・反省)

シニアの方々と交流できる会は、少ないので年に一度の大切な機会なのでメンバーとシニアの方々が交流することで支えられて会を運営できていることを新たに現役メンバーが理解したと思います。各テーブルでの交流に差があったので工夫をとり入れた質問やゲームなどを現役とシニアで行うことで距離感を近くし交流しやすい会にすればよかったと反省しております。

(2) 第一エリア合同例会(3月)に関する事項

(方法・手段)

第1エリアの絆を深めるために、合同例会において他L O Mと情報交換、交流を深め新たな価値観を見出すことで、L O Mの活性化につなげます。

(評価・反省)

第一エリア合同例会では、他のL O Mとの交流を深めることができよかったです。各L O Mがコロナ明けからの開催になり引継ぎがあまり行われていないことで顔合わせをする段階から直接打ち合わせを行うまでに時間がかかりあまり打ち合わせがうまくできなかった点が反省です。

(3) J C Iプログラムを活用した会員の人財育成に関する事項

(方法・手段)

メンバーにJC活動をより前向きに行ってもらうために、J C I公認プログラムを活用しJ A Y C E Eとしての知識を習得、多種多様な考えや自分の良さを新たに知ること、自己肯定感がさらに向上します。

(評価・反省)

スピーチとJCゲームとVFを実施いたしました。J A Y C E Eとしての知識を習得しメンバーの成長につながったと思います。スピーチでは、参加人数27名と最初の動員率からJCゲームは、21名とVFは、17名と段々参加動員が見込めず公認プログラムへの出席率があまりよくなかった点が反省です。

(4) 出向に関する事項

(方法・手段)

メンバーの新たな可能性を見出すために、積極的に出向を促すことで、組織力の向上につながります。

(評価・反省)

私自身アカデミー委員会に出向することで他のLOMとの関りができ、出向の楽しさを知り事業への取り組みを学び組織力の向上が芽生えました。委員会メンバーへ報告があまりできていなかったのを学んだことを伝えればよかったと反省が残ります。

(5) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

経験値の向上を図るために各種大会への参加を促すことで、対話や交流の機会が増え団結力が高まります。

(評価・反省)

各種大会に参加することで委員会メンバー内やJCIひびきメンバーで対話や交流が増えて団結力が高まったと思います。京都会議や九州コンファレンスは、他LOMの人たちとも会うことができ有意義な経験ができました。参加できなかった大会もありましたが仕事とJCのスケジュール管理の点で反省です。

(6) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

会員拡大を促進するために、会員拡大委員会と連携し情報共有することで、拡大意識が向上します。

(評価・反省)

委員会で精一杯だったので会員拡大委員会との連携があまりとれず、情報共有があまりできていなかったのが拡大の意識向上につながらず反省です。

(7) 毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

毎月の委員会の出席率を高めるため、メンバーと様々な対話、意見交換を繰り返し行うことで、信頼関係が生まれ参加意欲が向上します。

(評価・反省)

毎月の委員会にて集まりメンバーと対話し委員会内での役割分担ができていたので良かったです。全員がそろって事業に参加ができないこともあったのが反省点です。

2. 総評

例会を行う際に委員会メンバーが会場の設営を進んで行ってくれ動員にもかなり苦労しま

したが連絡をメンバー全体にかけてくれて協力してやってくれたので助かりました。リハールから当日の事業に取り組むまでを経験できよかったのですが事業に参加するメンバーをうまく巻き込むことができず出席率が上がらなかったことは反省点です。公認プログラムのスピーチとJCゲームとVFを行いましたがとても勉強になり参加してくれたLOMメンバーの意欲向上とスキルアップにもつながりました。色々な公認プログラムがあるのでどの公認プログラムをしてもいいと思いました。アカデミー委員会に出向することで交流ができ同期の仲間ができ事業を通じて親睦を深めることができたので貴重な体験をさせてもらいました。この経験を活かしてアカデミー委員会への出向の良さを伝えていきたいです。

3. 担当所見

井上副理事長所見

希望を持って始まった委員長としての1年間で人一倍苦勞し、たくさんのがが学べた1年になったでしょう。例会に公認プログラムと議案と向き合い続けたなか、委員会メンバーとの連携の難しさに苦勞しつつも、最後までやり遂げたことは評価に値すると考えます。一方で、自分の弱点も多く見つかった1年になったことだと思います。今後、自分を見つめ直し仕事にJCに活躍することを期待しています。1年間ありがとうございました。

川口常任理事所見

会員開発委員会は例会が5回、JC I 公認プログラムが3回で議案数16本と非常に議案数の多い中、また仕事とJCのバランスが難しく、委員長自身の思うようにいかないことも多くありましたが、1年間委員長の職をやり遂げてくれました。気持ちが落ち込んでいる時期もあり、私から何度も嫌事を言われながらもやり遂げた経験は今後のJC生活、私生活の糧になると確信しています。1年間ありがとうございました。

盛田室長所見

初めての委員長を経験し1年4ヶ月、最も忙しいJC活動でしたが自身のスキルアップに繋がったと思います。そのなかでも会員開発委員長はいかに良い例会と事業を設えるかでひびきメンバーの資質向上につながります。100パーセント例会はできませんでしたが動員方法のいろいろな手法を経験したと思います。それを活かして次年度も例会委員会に高いバトンで渡し、引き継ぎしていきましょう。また、プラス評価といたしましては、例会、事業、懇親会は必ず参加し、自身のポジティブさを見出してくれました。この点に関しては評価したいと思いますがマイナス評価と致しましては少々、議案の提出期限が間に合わないということが見受けられたのでこの1年間を振り返り、良い点だけを糧に次年度にも活かしてください。1年間ありがとうございました。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 例会（5、7、9、11月）の開催に関する事項

例会は、1年をとおしてLOMのメンバーの成長の機会を提供する場なので、出席率や動員を意識しながら行ってください。例会ごとにテーマを決めることで目的が定めやすくなるのでテーマを決めてから例会をおこなうとスムーズにいく期待ができます。毎回のセレモニー登壇者は、メンバー全体で行うことで経験値になりますので登壇者が偏らないように検討してください。

(2) 第一エリア合同例会（3月）に関する事項

第一エリア合同例会は、各LOMとの打ち合わせが重要となります。主管となるLOMが中心となり打ち合わせを進めてください。当日のセレモニー登壇者や登壇の仕方を統一して行ってください。懇親会での人数は、決められた期限内に主管となるLOMに伝え駐車場を把握しておおよその台数と狭い場合は、各LOMに乗り合わせてきもらう必要があるので打ち合わせを行う際に確認してください。懇親会でのLOMPRで登壇者がいる場合はあらかじめリハーサルを事務局などでリハーサルを行った方がスムーズに行えます。当日の欠席者、遅参者がいないように動員の際に周知することで当日のスケジュールがスムーズにいくことが期待できます。配布物は、必ず確認してコンプライアンス違反がないか確認して印刷物を配布してください。委員会PRや余興の際は、あらかじめ各LOMで共有するようにしてください。

(3) JCIプログラムを活用した会員の人財育成に関する事項

トレーナーをお呼びする際は、挨拶と実際にお会いすることが難しければzoomで顔合わせをし実施時間の打ち合わせをしてください。旅費交通費での飛行機をとる際は、旅行代理店を通し値段が変動しますので分割審議をとるなど検討する必要があります。トレーナーの方に次の日の予定をお伺いし相談しながら帰る際のチケットをとるようにしてください。プログラム当日にトレーナー側のアンケートも配布しメンバーに終了後に回答してもらってください。懇親会にもトレーナーの方が同席されるかの有無を聞いてください。空港や駅までお出迎え行く際は、時間通りに行くようにしてください。出席率がよくない場合は、公認プログラムの良さと内容をメンバーに伝えることで理解してもらい電話だけではなく直接会うなどして動員に力をいれるようにしてください。

(4) 出向に関する事項

委員会の際は、出向者のスケジュールを確認してから行うようにしてください。

(5) 各種大会への参加に関する事項

各種大会の趣旨を説明し、動員を徹底してください。

(6) 会員拡大に関する事項

青年会議所の魅力をメンバーに周知してもらい、委員会メンバーにオブザーバーを紹介してもらえるように全体で協力してください。

(7) 毎月の委員会開催に関する事項

事業に関することをメンバーに伝え、月一度の委員会で役割分担や動員などを話合うよう徹底してください。

5. 実施組織

委員長	田染 智絵	福岡ブロック協議会	アカデミー第2委員会	委員
副委員長	黒木 五十鈴	福岡ブロック協議会	アカデミー第1委員会	委員
委員	大場 嵩士			
	國政 丈記			
	二村 勇希			

(委員50音順)

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月					
2月					
3月	第1エリア合同例会	0	0	0	
4月	JCI公認プログラム	72,000	67,074	0	旅費交通費、会場費、横断幕、講師記念品
5月	5月度例会	30,000	11,770	0	会場費、横断幕
6月					
7月	7月度例会	80,000	39,300	0	横断幕、会場費
8月	JCI公認プログラム	50,000	49,214	0	旅費交通費、会場費、横断幕、講師記念品
9月	9月度シニア合同例会	70,000	62,920	0	横断幕、会場費
10月	JCI公認プログラム	50,000	45,534	0	旅費交通費、会場費、横断幕、講師記念品
11月	11月度例会	70,000	44,761	0	講師謝礼金、会場費
12月					
合計		¥422,000	¥320,573	¥0	
決算	事業予算 事業収入 決算 残金 (¥422,000 + ¥0) - ¥320,573 = ¥101,427 (本会計へ)				
備考					

地域開発委員会

～基本方針～

長引くコロナ禍において、テレワークの導入やオンライン会議等の普及に伴い、作業効率が改善されてきた一方で、コミュニケーション不足等に課題を抱えている中、さらなる地域とのつながりを密にする運動や活動を起こすことが求められます。私たち地域開発委員会は、人とのつながりの価値を再認識し、多様な価値観を身に付けて問題、課題を把握した上で地域や各種団体とともに活気に満ち溢れた環境づくりに取り組む必要があります。

まずは、委員会の結束を高めるために、メンバーの自由な発想を尊重しそれぞれの価値観を発信しあえる環境をつくることで、信頼関係をより強固なものにします。そして、活動エリアの1市4町の底上げを行うために、各種団体とお互いに協力しあえる事業を構築することで、地域の各種団体とより強い協力関係を築きます。さらに、LOMメンバーの自己成長を促進するために、活動エリアである1市4町に関する知識を深める例会を構築することで、一人でも多くのLOMメンバーの向上心を刺激します。また、地域とのつながりをより深めるために、1市4町の事業には積極的に参加し、事業の課題を共有することで、地域の活性化につなげます。そして、グループ全体の向上心を刺激するために、出向メンバーと情報を共有し合い、委員会メンバーに伝えることで、出向メンバーをサポートします。さらに、自己成長の機会を提供するために、積極的に各種大会に参加することで、様々なJC経験を身につけてもらいます。また、会員拡大を成功させるために、拡大委員会と連携を取合い、オブザーバーを紹介することで、会員拡大の手助けにつなげます。

いろいろなつながりを大切に自ら地域団体と協力関係を築くことのできるメンバーは、変わりゆく社会に柔軟に対応でき、どんな場面でも逃げず問題解決能力を兼ね備えた周囲から愛されるJAYCEEへと成長し、よりよい地域社会、持続可能な地域を実現します。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

（1）地域開発事業の企画運営に関する事項

（方法・手段）

活動エリアの1市4町の底上げを行うために、各種団体とお互いに協力しあえる事業を構築することで、地域の各種団体とより強い協力関係を築きます。

（評価・反省）

計画時から岡垣スタイルと事業構築したことで、岡垣町や各事業者とより強い協力関係を築くことができました。また、町外から来ている参加者がとても多く、事業の目的でもあった町外の方に岡垣町波津周辺の魅力を知っていただくことができた事業になりました。岡垣町にまたサイクリングや店舗にまた遊びに来たいという声を聞いたのもよかったです。しかし、会場や各スポットが海沿いだったことを考慮し、事業を行う時期、時間帯を午後からにするなどの工夫が悪かったことと、開会式から閉会式まで多くの参加者を集めら

れなかったことが反省点です。

(2) 例会(10月)の開催に関する事項

(方法・手段)

LOMメンバーの自己成長を促進するために、活動エリアである1市4町に関する知識を深める例会を構築することで、一人でも多くのLOMメンバーの向上心を刺激します。

(評価・反省)

事前準備、当日準備を委員会メンバーで協力し早めの準備を徹底することができ、岡垣スタイルの眞山昌様を講師として招き、今後の地域とのつながり方や眞山様の実体験を踏まえた講演は、LOMメンバーの考えや今後の行動をよりよくし自己成長を促進する例会になりました。また、LOMメンバーから活動内容や地域との今後の接し方等がとても分かりやすく、活動エリアである1市4町だけでなく地元の地域との今後の関わり方を考えるきっかけになり、様々な地域活動やイベントに参加したいという意見もあったことがよかった点です。しかし、当日の人数把握や遅参者の把握がしっかりとできておらずテーブル、イス等の設営を例会中にしてしまったことが反省点です。

(3) 地域の行事に関する事項

(方法・手段)

地域とのつながりをより深めるために、1市4町の事業には積極的に参加し、事業の課題を共有することで、地域の活性化につなげます。

(評価・反省)

中間市の団体である日本赤十字協会からの依頼で、4月16日、に中間市の清掃をし、曲川を守る会からの依頼で、5月28日、10月22日に曲川周辺の清掃活動に参加しました。清掃活動や他団体との交流に寄与し、積極的に地域行事に参加できたことがよかった点です。しかし、動員する際に全体LINEや委員会LINEでの呼びかけや電話での動員が遅れ、参加意欲を高めることができず参加人数が少なかったのが反省点です。

(4) 出向に関する事項

(方法・手段)

グループ全体の向上心を刺激するために、出向メンバーと情報を共有し合い、委員会メンバーに伝えることで、出向メンバーをサポートします。

(評価・反省)

当委員会は、私と川島幸平君が福岡ブロック協議会アカデミー第2委員会に出向し、萩原副委員長が福岡ブロック協議会アカデミー第1委員会に出向しました。3人出向しましたので、地域開発委員会を開催する際にそれぞれの貴重な経験や体験を委員会メンバーに周知することができました。その結果、出向していない委員会メンバーもアカデミーのことを

詳しく知ることができ、出向への向上心を刺激することもできました。また、出向メンバーも1年間貴重な経験ができ、多くのメンバーで出向できたこともよかった点です。しかし、日々のスケジュール管理ができていなかったため、すべてのアカデミー事業に参加できなかった点が反省点です。

(5) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

自己成長の機会を提供するために、積極的に各種大会に参加することで、様々なJC経験を身につけてもらいます。

(評価・反省)

本年度は、ブロック大会、全国大会等、様々な各種大会に参加することで普段できない経験を多くの委員会メンバーができたことがよかったです。また、参加できなかったメンバーにも委員会等で情報共有できたことがよかった点です。しかし、実際に足を運び各種大会に一度も参加できなかった委員会メンバーがいたことと、そういったメンバーへの仕事とJCのスケジュール管理の配慮の点で反省です。

(6) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

会員拡大を成功させるために、拡大委員会と連携を取合い、オブザーバーを紹介することで、会員拡大の手助けにつなげます。

(評価・反省)

シニアの都津川先輩に声をかけ、オブザーバーを紹介していただき地域事業に動員できたことはよかった点です。反省点としましては、委員会メンバーを巻き込んで会員拡大の意識を高く持っていなかったことが反省です。

(7) 毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

委員会の結束を高めるために、メンバーの自由な発想を尊重しそれぞれの価値観を発信しあえる環境をつくることで、信頼関係をより強固なものにします。

(評価・反省)

毎月一回は必ず地域開発委員会を開催し、JCでの様々な経験や事業の構築を全員で話し合うことで、信頼関係を築くことができたことがよかった点です。しかし、毎月100%出席にできなかったことが反省点です。

(8) その他地域開発に関する事項

(方法・手段)

迅速に対応します。

(評価・反省)

地域開発委員会は、他の委員会と比べ地域とのつながりが強いこともあり、他の団体から地元の行事やイベントへの参加等に協力してほしいとお願いされることがありました。実際に1市4町で活躍されている岡垣スタイルと協力して事業構築することで岡垣町の他団体、事業者とより強く信頼関係を築くことができたことがよかった点です。しかし、他団体の協力願い等に対応できるようLOMに周知できなかったことが反省点です。

2. 総評

地域事業では、3月の初上程前から他団体である岡垣スタイルと何度も打ち合わせを行い、様々なアドバイスをいただきながら協力して事業構築できたことはとてもいい経験になりました。また、岡垣町や各事業者ともよりよい信頼関係を築くことができたことがよかった点です。事業内容では、岡垣町波津周辺の魅力をLOMメンバーや参加者に触れていただきSNSで町外に発信することで、一人でも多くの方に波津周辺の魅力を知っていただくことができたことがよかった点です。10月度例会では、委員会メンバーが会場設営、リハーサル等の準備を進んで行ってくれたことでスムーズな設営ができ、活動エリアの1市4町だけでなく様々な地域の活動やイベントに興味をもってもらえたこと、また、自ら積極的に地域活動に参加しようと思っただけいたLOMメンバーが多かったことがよかった点です。

3. 担当所見

井上副理事長所見

入会間もなく委員長という大役に年当初から不安はありつつも、持ち前の明るさと負けん気の強さで周囲を巻き込み、各事業を確実にこなしていく姿には感服いたしました。また、年上の副委員長を上手に操り、これまで腰が重かったメンバーを参画させることにも成功し、委員長としての大役は見事に果たしたものであると確信いたします。事業についても、岡垣町というこれまでLOMが二の足を踏んでいたところにフォーカスし、町の魅力を発信することはもちろんのこと、行政や他団体と連携し、今後の関係性まで築いてくれたことは、LOMの大いなる財産となった1年であるとともに、理事長の考えを形に出来たものであると確信します。今後、その第一人者として、LOMと岡垣町、各団・事業者との懸け橋となり、さらなる関係性の構築や魅力発信へ積極的に関わっていくことを期待しています。年当初より、三宮委員長は今後LOMの発展には欠かせない人物であると想い、厳しいことばかり言い続け、高い理想を求め続けた1年でしたが、それに答えようと必死に頑張る姿に感動しました。今後さらなるご活躍を期待します。1年間ありがとうございました。

川口常任理事所見

初めての委員長ということもあり、当初は不安な様子でしたが、自身の基本方針の達成に向

け、1年間JCIひびきの委員長の職を全うしてくれました。地域開発事業は3月から議案の上程を行い11月に開催と、モチベーションの維持が難しかったと思いますが、岡垣町や様々な事業者、諸団体を巻き込んだ事業を開催してくれました。弱音を吐く場面もありましたが、次年度も委員長を引き受けてくれて、今年度の経験は次年度、今後のJC生活に、そして私生活の糧になると確信しております。また、萩原副委員長が次年度委員長の役を引き受けてくれたことは、委員長の職を全うできたことの証だと思います。今後さらにJCIひびきの中心で活躍していくことを期待しています。1年間ありがとうございました。

梅田室長所見

入会2年目で委員長を受け、様々な事を一気にやることとなり、順応に至るまで困難な日々が続いたと思います。しかし、持ち前の誠実さと、議案に対して真剣に取り組み続けたことで、1年間委員長の職務を全うしていただきました。事業計画、動員など様々な点で苦労があったと思いますが、そこに費やした時間や苦労は経験値となって今後のJC活動や人生においてよりよい変化をもたらすことだと思います。また、委員会メンバーを委員長なりにうまく引っ張っていただいたことで、10月度例会、地域開発事業が無事に終わったことは自信をもってもらい、協力してもらった委員会メンバー、LOMメンバーへの感謝の気持ちを忘れないでください。今年度の経験を活かし次年度以降の更なる活躍を期待しております。1年間大変お疲れ様でした。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 地域開発事業の企画運営に関する事項

当日参加者などいる場合は、受付でもたつので、参加者リストを活用して参加者に渡す必要書類等あれば前もってファイルなどにまとめてください。また、事業内容を把握し事業を行う時期、時間帯を入念に検討してください。審議する前に常任理事を含めた執行部と実際に地域事業のシミュレーションを行い、意見をいただいたあとに審議を取ってください。多くの参加者が参加する事業の場合、LINEオープンチャットを活用してください。また、参加者の方にはリストバンドをつけていただきましたが参加者と非参加者の区別が分かりにくかったので、一目で見分ける工夫をしてください。

(2) 例会(10月)の開催に関する事項

会場設営を早めに行い、リハーサル等の時間を確保するようにしてください。また、計画時に設営、リハーサル等の時間を考慮して会場を何時から借りるか決めてください。動員の際に参加人数を把握し、テーブルや椅子は多めに用意してください。また、計画時から懇親会までの案内を流してください。

(3) 地域の行事に関する事項

筑前中間やっちゃん祭からは、事業の参加、事業構築のための会議参加の動員があります。また、日本赤十字協会からは、地域の清掃活動、中間市曲川の清掃等の動員、パトランからは、遠賀町のパトロールランニング参加の動員があります。他団体からの動員依頼がきましたら、地域開発メンバー、LOMメンバーに早めに全体LINE等で周知して動員してください。また、今年は10月15日に筑前中間やっちゃん祭から動員の依頼がありましたが今年度の地域事業のチラシ配布が重なったため、参加できなかったもので、筑前中間やっちゃん祭りや日本赤十字協会からの清掃や曲川清掃などの日程は前もって把握してください。また、JCIひびきからも、くるみさんのラジオ、宗像新聞など広報協力をお願いを行い、岡垣スタイルやパトラン等、地域事業での動員を他団体をお願いするようにしてください。

(4) 出向に関する事項

委員会や事業をする際は出向者のスケジュールを確認するようにしてください。また、委員会等で出向報告をするなど意見を共有してください。

(5) 各種大会への参加に関する事項

各種大会の趣旨を説明し、動員の声掛けを徹底してください。また、自ら各種大会に参加し、付き添いや寄り添いをして参加しやすい環境づくりを行ってください。

(6) 会員拡大に関する事項

知り合いにJCIひびきの魅力を伝えるようにメンバーに周知してください。委員会メンバーにオブザーバーがいらないか声掛けを徹底してください。また、地域事業などの際はオブザーバーを参加させることで会員拡大につなげてください。

(7) 毎月の委員会開催に関する事項

委員会メンバーの空き日程を早めに把握し、開催日を早めに決めてください。また、特に地域事業などは、事業に関する趣旨を委員会メンバーに伝え、役割分担や動員を含めた話し合いを徹底的にしてください。

(8) その他地域開発に関する事項

地域の問題点や地域のイベントに関心をもって活動してください。また、各種団体や各事業者と積極的に交流、協力して事業を行ってください。

5. 実施組織

委員長	三宮 颯人	福岡ブロック協議会	アカデミー第2委員会	委員
副委員長	萩原 優典	福岡ブロック協議会	アカデミー第1委員会	委員
委員	川島 幸平	福岡ブロック協議会	アカデミー第2委員会	委員

佐々木 孝
瀬川 愛梨
竹口 駿平

(委員50音順)

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月					
2月					
3月					
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月	10月度例会	30,000	24,851	0	通信運搬費、謝礼金、会場費、手数料
11月	地域開発事業	500,000	460,207	0	運営費、消耗品費、印刷製本費、保険料、会場費、手数料
12月					
合計		¥530,000	¥485,058	¥0	
決算	事業予算 事業収入 決算 残金 (¥530,000 + ¥0) - ¥485,058 = ¥44,942 (本会計へ)				
備考					